

2008 年度研究プロジェクト「共同研究の法モデル」
Research Project: Law Models of Joint Research Activities

実施期間： 2003～2008 年度（第 6 年次）

Term of the Project: 2003-2008 fiscal years (6th year)

研究代表者： 北川 善太郎 国際高等研究所副所長

Project Leader: Dr. Zentaro KITAGAWA, Vice-Director, IIAS

研究目的：

大学・研究機関における研究体制が大きく変化している。2002 年には知的財産戦略が国の政策となり、知的財産基本法が制定された。大学教員がその研究成果を活用するために自ら起業家となることもめずらしくない。多くの大学には知的財産本部や関連する技術移転センターが設けられている。大学・研究機関で生まれた研究成果や知的財産はわれわれの将来にどのような影響をもつのであろうか。

本プロジェクトは、特別研究「情報市場における近未来の法モデル」（文科省未来開拓学術研究推進事業）において展開したコピーマート研究ならびに特別研究「物質科学・システムデザイン研究会」における産学共同研究機構規約・知的財産規程・研究記録管理規程の策定を通じて発表した「産学連携高等研モデル」（高等研報告書 [0205]）を基盤としている。

本プロジェクトでは、産学連携のみならず、「学学」の共同研究問題（大学－大学、大学－研究機関等）にも着目して、さまざまな研究共同体の法的問題を研究し、研究共同体における情報のスムーズな流通を確保する法モデルを創出する。その際、研究共同体を 3 層構造として把握する。第 1 層はコピーマートのように情報基盤システムを構成する要素（単位コンテンツ、その知的財産管理処理、取引条件、情報システム）、第 2 層は知的財産ポリシーや産学連携協定のような諸制度（「産学連携高等研モデル」、「知的財産の法モデル」「教育システム」）、第 3 層は大学や研究機関、企業などの研究共同体ビジネス・システムである。

これまで第 1 層関連でコピーマート・システムの研究をまとめ、第 2 層関連では高等研学術出版コピーマートを構築し、産学連携高等研モデルや知的財産高等研モデルをまとめている。第 2 層の高等研モデルは部分システムとして大学なり研究機関なり企業の研究共同体をつくっている。本年度の研究目標としてこれら各種の部分システムを統合した「研究共同体モデル」の構築を目指す。

Objectives:

The research systems of universities and research institutions are undergoing great changes. In 2002, a strategy for intellectual property became a matter of national policy, and the Basic Law on Intellectual Property was enacted. It is no longer unusual for academics to become entrepreneurs themselves, to make use of research results. Many universities have the Intellectual Property Office and an affiliated Technology Licensing Organization. It will be interesting to see how our future is affected by the intellectual property and research created by universities and research institutes.

This project is based on the study of Copymart which was developed in the special research project “Legal Models for Information Markets of the Near Future” and on “IIAS Model for Industrial-Academic Collaboration,” which consists of the industrial-academic agreements, the intellectual property rules and the research records management rules, set for the special

research project “Material Science/System Design Research Group” in IIAS.

This project emphasizes not only industrial-academic collaboration, but also the joint research issue of academic-academic (e.g., university-university, university-research institution, etc.) and explores legal issues of various research communities, in order to create various kinds of legal models that ensure the smooth circulation of information product of research communities. The first phase of a research community consists of elements for the creation of an information infrastructure (unit content, intellectual property management, transactional terms, information systems), its second phase consists of those institutions concerning intellectual property policy statements and academic-industrial agreements, such as “IIAS Model for industrial-academic collaboration,” “intellectual property law models,” “educational systems”, and its third phase is a business system for research communities implemented in universities, research institutions, business enterprises, etc.

Up to now, the study of the Copymart system has been carried out in relation to the first phase, and relating to the second phase, the Copymart for IIAS Academic Publications is being established, and, furthermore, the IIAS model for industrial-academic cooperation and the IIAS model for intellectual property have been published. These IIAS models for the second phase will be a portion of a research community of universities, research institutions or businesses. The goal of this year’s research is to take these various sectional systems and combine them into the creation of a “model for a research Community.”

前年度までの研究の概要：

本研究は、共同研究の諸類型における「共同研究の法モデル」の構築と、その法モデルの研究成果をコピー・マート化する「共同研究コピー・マート」の構築を大きな柱としてきた。

「共同研究の法モデル」分野では、特に研究共同体の第2層を明らかにするために、まず、「产学連携高等研モデル」の応用研究とともに、「学学」の共同研究を遂行した。共同研究の具体的な展開としては、「21世紀民法像」共同研究を継続し、日本民法アイデンティティの検討と中国との比較的検討を行った。その一環として、「中国民法典立法高等研フォーラム」を3回開催し、中国民法典編纂における物権法の問題を討議した。次に、研究代表者を中心に名城大学において遂行していた私立大学学術フロンティア推進事業「オンライン日本法コピー・マート」の研究成果を受け止めて、民法および知的財産法を中心とした「法教育モデル」の可能性を検討した。とりわけ、产学連携に関する高等研特別研究・科研費基盤研究「产学連携の知的財産法モデル」(2005-2006)と共同で取り組み、「知的財産法教育」について研究を進めるとともに、共同研究をめぐる知的財産問題の研究として、サーベイを利用して法受容の問題にも取り組んだ。

「共同研究コピー・マートの構築」分野では、特に研究共同体の第1層と第3層を明らかにするために、化学物質、電子顕微鏡写真、高等研学術出版、オンライン日本法、九大アサガオ、能文様などのコピー・マート構築に関わる法的問題を研究した。とりわけ研究プロジェクト「学術研究機関における学術情報システムのモデル構築」(2005-)との合同の取り組みでは、提示モデルの実証研究を進めてきた。特に高等研学術出版については、本プロジェクトの研究成果を基礎にして、コピー・マート研究所が構築したコピー・マート・システムに登録することになった。これらの取り組みの中で、特別研究

「产学連携の知的財産法モデル」と合同のコピー・マート・フォーラムを4回開催し、そのうち1回は九州大学のプロジェクトと連携して、遺伝資源・伝統的知識の利益配分における諸問題を討議した。また、高等研研究プロジェクト「学術情報機関における学術情報システムのモデル構築」との合同コピー・マート・フォーラムを7回開催し、情報システムの専門家や産業界の話題提供者とともに討議を重ねた。とりわけ2007年度の取り組みでは、研究過程で創出されるさまざまな価値あるコンテンツを、「素材コンテンツ」という単位で取り扱い、そのコンテンツへアクセスする利用者が自身で複数の

素材コンテンツを編集することを可能にする「参画利用」を、高等研学術出版の提供形態モデルの一つ（「利用者編集版」）として具体化した。

Achievement:

This research project has the creation of a “Law Model for Joint Research” for various types of joint research, and the creation of the “Copymart for Joint Research” that “copymartizes” the research results of the law model, as its pillars.

In the area of the “Law Model for Joint Research,” particularly in order to clarify phase 2, we have first been performing joint research on “Academic-Academic,” along with applied research for the “IIAS Model for Industrial-Academic Collaboration.” As for specific developments regarding joint research, research on the “Image of 21st Century Civil Law,” examining the identity of Japanese civil law and studying it in comparison with Chinese civil law, is ongoing. As one aspect of these efforts, the “Japan-China Civil Law IIAS Forum” was held on three occasions, discussing property law issues arising from the codification of Chinese civil law. Next, taking the research results of the Academic Frontier Research Project “Copymart for Japanese Law Online” at Meijo University, we have studied the feasibility of a “Model for Legal Education” focusing on civil law and intellectual property law. Primarily, we are studying intellectual property issues concerning joint research by using surveys to research problems of legal reception and proceeding with the project “Intellectual Property Legal Education” in conjunction with the special project “Intellectual Property Law Model for Industry-Academia Cooperation” (2005-2006).

Finally, in the area of “Copymart for Joint Research,” particularly in order to clarify phases 1 and 3, legal issues relating to Copymarts for distributing chemical materials, electron microscope photography, IIAS Academic Publications, Japanese Law Online, Kyushu University “morning glory” project and Noh culture, have been studied. Particularly, we proceeded these studies cooperatively with the research project “System Models of Academic Information in Research Institutions” (2005--current). More specifically, using the research results of this project as the information infrastructure, IIAS Research Publications were implemented and IIAS information products are registered in the catalog of the Copymart System created by the Copymart Institute. In this regard, we held four Copymart forums jointly with the special research project “Industrial-Academic Collaborative Models for Intellectual Property,” including a forum in conjunction with a Kyushu University research project. Also, seven Copymart forums were held jointly with the IIAS research project “System Models of Academic Information in Research Institutions,” offering discussion with experts from the information systems field and the business sector. In 2007, an experiment was conducted to divide the information products registered in the Copymart system into a set of unit contents and to make an interactive use of these unit contents throughout the entire IIAS information products. This may function as one of the models for the distribution of IIAS Academic Publications.

キーワード： 共同研究、知的財産、コピーマート、法教育

Key Word: Joint research, intellectual property, copymart, legal education

研究計画・方法：

今年度は「共同研究の法モデル」の研究を進展させて、それらを統合する「研究共同体モデル」の構築を目指す。

「共同研究の法モデル」研究では、特に研究共同体の第2層を明らかにするために、共同研究をめぐる契約問題、知的財産法、コンテンツ流通の契約問題、各機関の知的財産ポリシーなどの検討を継続する。また、「21世紀民法像」共同研究の一環として、これまでフンボルト財団との学術交流に基づく日本民法アイデンティティ研究と『中国民法典立法高等研フォーラム』についての共同覚書に基づく日中民法研究として、フォーラムを開催してきた。本年度はその数年にわたる取り組みについて学術情報としてまとめた。「21世紀民法像」研究とともに、「オンライン日本法コピーマート」の成果を発展させて、民法および知的財産法を中心とする「法教育モデル」の創出を目指し、前述の共同研究をめぐる諸問題の検討と統合して「民法モデル」「知的財産法モデル」を提示する。

「共同研究コピーマート」研究では、引き続き研究共同体の第2層の高等研モデルづくりをすすめる。高等研学術出版、電子顕微鏡写真、化学物質、遺伝資源・伝統的知識（九州大学と連携）、九州大学アサガオ写真、能文様、法教育モデルのコピーマート化をすすめる。コピーマートは、研究共同体の基盤を構成する基幹要素（第1層）であるので、種々の高等研モデルづくりとともに、研究共同体における基盤システムとしてのコピーマート・システムが整備される。

今年度の取り組みとして、「学術情報システム」と「共同研究の法モデル」の研究諸成果（产学連携、知的財産財産の高等研モデルや21世紀民法モデル）の刊行とともに、各種の高等研モデルを部分システムとして取り入れた「研究共同体モデル」を提言する。

研究会開催予定：

①「共同研究の法モデル」研究

- ・产学連携モデルおよび知的財産法モデルに関する研究会（30回程度、高等研、各回10名程度）
- ・民法教育モデルおよび比較法に関する研究会（30回程度、高等研、各回10名程度）
- ・「中国民法典立法高等研フォーラム」国際フォーラム
 - 1回、高等研：国内参加者30名程度（中国から数名参加する可能性あり）
- ・フンボルト財団共催フォーラム（フンボルト財団との「学術交流に関する覚書」に基づく）
 - 1回、高等研：国内参加者30名程度（欧米から数名参加する可能性あり）

②「共同研究コピーマート」研究

- ・コピーマート理論に関する研究会（30回程度、高等研、各回10名程度）
- ・コピーマート・フォーラム
 - 2～3回、高等研：国内参加者25名程度（欧米から数名参加する可能性あり）

③「共同研究体モデル」研究

- ・研究共同体モデルに関する研究会（30回程度、高等研、各回10名程度）
- ・コピーマート・フォーラム
 - 2～3回、高等研：国内参加者25名程度（欧米から数名参加する可能性あり）

※海外からの参加者は必ずしも確定しているわけではなく、状況に応じて、他の用件で来日中の学者の招聘や外部資金導入を検討する。

参加研究者リスト： 55名（◎研究代表者）

氏名	職名等
◎ 北川 善太郎	国際高等研究所副所長
上田 誠一郎	同志社大学法学部法律学科教授
上野 達弘	立教大学法学部国際ビジネス法学科准教授
勝久 晴夫*	国際高等研究所研究員
加藤 敬介	コピーマート研究所研究員

金森 順次郎	国際高等研究所長
季 衛東	神戸大学大学院法学研究科教授
小口 彦太	早稲田大学法務研究科教授
潮見 佳男	京都大学大学院法学研究科教授
志水 隆一	国際高等研究所上級研究員／大阪大学名誉教授
鈴木 賢	北海道大学大学院法学研究科教授
須永 知彦	滋賀大学経済学部社会システム学科講師
高嶌 英弘	京都産業大学大学院法務研究科教授
高杉 直	同志社大学法学部教授
高田 恭子	前国際高等研究所研究員
高山 恵子	財団法人比較法研究センター主席研究員
田中 千代治	大阪工業大学名誉教授
手嶋 豊	神戸大学大学院法学研究科教授
永田 眞三郎	関西大学大学院法学研究科教授
中西 康	京都大学大学院法学研究科教授
中林 良純	京都大学大学院法学研究科大学院生
服部 高宏	京都大学大学院法学研究科教授
平田 真巳	大阪府立大学大学院経済学研究科大学院生
古谷 貴之	同志社大学大学院法学研究科大学院生
松井 章浩	立命館大学法学部非常勤講師
松田 一弘	京都大学大学院法学研究科教授
松宮 広和	群馬大学社会情報学部情報社会学科准教授
松本 恒雄	一橋大学大学院法学研究科教授
マノジュ エル	甲南大学経営学部教授
三浦 武範	コピーマート研究所研究員
宮田 英治*	国際高等研究所研究員
宮脇 正晴	立命館大学法学部准教授
山田 篤	財団法人京都高度技術研究所研究部主席研究員
山名 美加	関西大学法学部准教授
山本 敬三	京都大学大学院法学研究科教授
王 晨	大阪市立大学法学部教授
浅井 浩二	コピーマート研究所レクシスコピーマート研究員
赤松 伊織	コピーマート研究所レクシスコピーマート研究員
井下 亨	コピーマート研究所レクシスコピーマート研究員
岩瀬 真央美	兵庫県立大学准教授
桑原 至	コピーマート研究所レクシスコピーマート研究員
小林 洋哉	株式会社ジェイテクト法務部長
阪上 剛	コピーマート研究所レクシスコピーマート研究員
坂田 均	同志社大学大学院法学研究科客員教授・弁護士
主森 武	レクシスネクシス・ジャパン株式会社
中澤 剛	レクシスネクシス・ジャパン株式会社
中田 邦博	龍谷大学法科大学院教授
中村 有利子	龍谷大学ロー・ライブラリアン
樋口 豊治	あーく特許事務所弁理士

平川 雅一 レクシスネクシス・ジャパン取締役
松井 大輔 コピーマート研究所レクシスコピーマート研究員
松中 学 大阪大学大学院法学研究科助教
村上 広一 名城大学情報センター助教
望月 翔 立命館大学法学部准教授
渡邊 俊昭 ナカシャクリエイティブ株式会社執行役員
＊：研究支援者

研究会等開催実績：

研究会（＊は比較法研究センターで開催、それ以外は高等研で開催）

第1回：4月4日
第2回：4月5日
第3回：4月10日＊
第4回：4月12日
第5回：4月17日＊
第6回：4月19日
第7回：4月22日
第8回：4月24日＊
第9回：5月15日＊
第10回：5月22日＊
第11回：5月27日
第12回：6月5日＊
第13回：6月12日＊
第14回：6月14日
第15回：6月19日＊
第16回：6月26日＊
第17回：7月3日＊
第18回：7月10日（「学術研究機関における学術情報システムのモデル構築」と合同開催）＊
第19回：7月15日
第20回：7月16日＊
第21回：7月24日＊
第22回：7月31日＊
第23回：8月1日＊
第24回：8月7日＊
第25回：8月8日＊
第26回：8月12日
第27回：8月13日＊
第28回：8月18日＊
第29回：8月21日＊（「学術研究機関における学術情報システムのモデル構築」と合同開催）
第30回：8月26日＊
第31回：8月27日＊
第32回：8月28日＊
第33回：9月4日＊（「学術研究機関における学術情報システムのモデル構築」と合同開催）
第34回：9月5日＊
第35回：9月26日＊

第36回：10月2日*
第37回：10月9日*
第38回：10月16日*
第39回：10月23日*
第40回：11月4日*
第41回：11月10日*
第42回：11月13日*
第43回：11月20日*
第44回：11月25日
第45回：11月28日
第46回：12月4日
第47回：12月11日*
第48回：12月16日*
第49回：12月25日*
第50回：1月5日*
第51回：1月9日*
第52回：1月22日*
第53回：1月29日*
第54回：2月5日*
第55回：2月6日
第56回：2月12日*
第57回：2月19日*
第58回：2月24日*
第59回：3月5日*
第60回：3月12日

コピーマートフォーラム

第1回：8月19日（通算第12回）（参加者31名）
（「学術研究機関における学術情報システムのモデル構築」と合同開催）
第2回：10月30日～31日（通算第13回）（参加者14名）31日は比較法研究センターで開催
第3回：1月15日（通算第14回）（参加者12名）
（「学術研究機関における学術情報システムのモデル構築」と合同開催）
第4回：2月26日（通算第15回）（参加者12名）
（「学術研究機関における学術情報システムのモデル構築」と合同開催）

高等研フォーラム「民法の未来像」：5月1日*（参加者14名）

研究実績の概要：

本研究は、産学連携および大学－大学、大学－研究機関等の「学学」における共同研究問題に着目して、さまざまな研究共同体の法的問題を研究し、情報社会制度としての研究共同体の法モデルを創出するものである。本研究は、3つの層からなっており、「学術情報機関における学術情報システムの構築」プロジェクトとの相互補完によりプロジェクトを遂行している。

「研究共同体」に関する研究の第1層は、コピーマートを利用した情報基盤システムに関する研究である。この分野は、「学術情報機関における学術情報システムの構築」プロジェクトの主たる研究課

題であり、その研究成果については当該プロジェクトの実績概要において記述する。「研究共同体」に関する研究の第2層は知的財産ポリシーや産学連携協定のような諸制度に関するもので、第3層は、第1と第2の層の上に構築される、大学や研究機関、企業などの研究共同体ビジネス・システムである。2008年度は、第3層に関する研究を中心に実施した。第1層で構築した情報基盤システムに、他の研究組織や社会システムが連結することにより生成する統合システムが研究共同体の中心となる。その統合システムの研究成果を、さらに素材コンテンツという単位に分解し、それらを利用者が自由に検索し、組み合わせ、入手することができるシステムとして「参画利用」というモデルについて本年度にその実証実験を行った。

本研究で取り扱った法モデル上の論点は多岐にわたっており、以下では、それぞれの到達点として、本年度までにシステム構築の実証実験を完了したモデル、具体的コンテンツの実証研究を行ったモデル、理論の提示をおこなったモデル、およびモデルに関連する文献に分けて記述する。

「実証実験が完了したプロジェクト」は、以下の通りである。

(1)高等研の情報出版委員会と連動して、高等研学術出版に関する実証実験を完了した。2008年度は、出版に加え、コンテンツの性格に応じて、「IIAS 研究資料」や「Copymart Library」というコーナーを設け、それらを通じた研究成果発信も行った。これについては、オンライン・システムの構築を含めて、「学術情報機関における学術情報システムの構築」プロジェクトの実績に記述する。

(2)大阪大学と高等研との間の共同研究である、計算機マテリアルデザイン (CMD) コピーマートについて、本研究プロジェクトからも、権利処理や情報提供システム構築に関する協力をを行い、CMD コピーマート利用契約、登録契約、計算コード利用許諾契約、個人情報保護ポリシーに関する検討を行った。これを受けて、CMD コピーマートは、情報提供システムの構築を完了している。

(3)京都大学の研究成果発信に関する高等研と京都大学メディアセンター等との間の共同研究の成果として、DVD 2点（京都大学人文科学研究所の生物時計に関する DVD 「宇宙と細胞に物語をみつけました！」および京都大学医学部、メディアセンターにおける胎児に関する教育用 DVD 「Movie:Development of the Human Embryo」）を刊行した。稼働するシステムとしては、コピーマート研究所と共同で「学術情報機関における学術情報システムの構築」プロジェクトの成果として構築した COPYMART サイトを利用している。

実証実験を行い、フォローアップ研究においても引き続き継続するプロジェクトは以下のものである。(1)化学物質、電子顕微鏡、アサガオ（九州大学との連携による）、能文様のそれぞれに関するコピーマート構築プロジェクトがある。いずれも、コピーマートを利用して、学術文化財にカテゴライズされるコンテンツを、各コンテンツの特質に応じてどのように扱うかについて検討した。これらについては、フォローアップ研究で研究を継続する。(2)共同研究に関わる知的財産法モデルとして、国際高等研究所のプロジェクト「産学連携の知的財産法モデル」やコピーマート研究所のプロジェクト「著作権法学習モデル」の成果を受け、法教育モデルの可能性を検討した。こうした法情報や法学教育等に関するプロジェクトとの連動としては、コピーマート研究所と共同で、JALO 民法および日本法トピックスという 2 つの法情報に関する共同研究プロジェクトを継続的に実施した。このプロジェクトは、コピーマート研究所において、日本のビジネス法全般に関するコピーマート・コード策定やコンテンツ作成のプロジェクトに発展している。

「実証実験を伴わないモデル研究」としてたとえば以下のプロジェクトがある。「21 世紀民法像」共同研究の一環として、本プロジェクトにおいて、日本民法アイデンティティおよび中国民法に関する共同研究も行った。その成果として、国際高等研究所において本年度を含め計 3 回開催した「民法の未来像」高等研フォーラム、および、研究代表者による中国人民大学での講演や物権法に関する著書の中国語訳などがある。また、研究代表者が、本研究の法モデルを応用した消費者法モデルの提示を 2008 年度に消費者法学会等で行っている（北川善太郎『近未来の消費者法モデル（記念講演）』現代消費者法 No.1, p.46、2008 年参照）。

本プロジェクトで取り上げた研究共同体の規範システムについては、「産学連携高等研モデル」とい

う形で、研究の自由と知的財産帰属ルールに関するモデル提示を行った。このモデルは、研究共同体を作る研究機構規約、知的財産規程、知的財産記録管理規程という3つの規約からなっている（高等研報告書[0205]）。注目してよいのはこのモデルが、高等研内部のみならず、外部の研究組織においても利用されるようになった。日本学術振興会の研究開発専門委員会・産学協力委員会の規約、科学技術振興調整費プロジェクトの規約、既に述べたCMDコピーマートの共同研究契約、研究機構規約等として、実際に活用されていることである。

要約すると本研究は、研究共同体の構築を課題としたが、高等研内部の共同研究および高等研と外部の大学や研究機関との共同研究が高等研の学術情報基盤システムと連結した研究共同体がいくつか構築することができた。情報技術面で単純であるが、その改良により、よりよいインターネットにおける制度となることが期待できる。以上の本プロジェクトにおける各統合システムの検討成果については、共同研究体モデルという観点から総括を行い、2009年度の研究成果のとりまとめの会合を経て研究成果報告書にとりまとめの予定である。

＜本プロジェクトの研究成果に関連して研究代表者が刊行した著書・論文＞

Z.Kitagawa『Research Community as an Institution in the Internet--New Role of Copyright and Contract--』Japanisch-deutsches Symposium Markt und Staat in einer globalisierten Wirtschaft (September 18-20,2008, IIAS) (近刊)

北川善太郎『近未来の法モデルとしてのコピーマートオンライン日本法(JALO)の展開－』L&T, No.41, p.71, 2008年

北川善太郎『近未来の消費者法モデル（記念講演）』現代消費者法 No.1, p.46, 2008年

北川善太郎『中国物権法の民法モデルと比較法』星野英一・梁慧星監修 田中信行・渠濤編集「中国物権法を考える」商事法務 (p.231-253) 2008/12/04

北川善太郎『Identity of Japanese Civil Law and Civil Law Models for the Near Future』Festschrift fuer Claus-Wilhelm Cnarus zum 70.Geburtstag, 2007, S.722-734.

北川善太郎『Contracts for Content Distribution - A Japanese Model』Festschrift fuer Ulrich Eisenhardt zum 70.Geburtstag, 2007, S.263-276.

Z.Kitagawa/K.Riesenhuer『The Identity of German and Japanese Civil Law in Comparative Perspectives』(De Gruyter Recht,2007)共著 2007年

北川善太郎『法情報システムとしての民法－「オンライン日本法」研究からの報告－』名城ロースクール・レビュー第5号(p.73-89) 2007年

北川善太郎『日本の契約法とモデル契約法』民商法雑誌 136卷 6号(p.1-26) 2007年

北川善太郎『Academic-Industrial Cooperation and Intellectual Property in Japan』Asada,Assmann,Kitagawa,Murakami,Nettesheim (hrsg.), Das Recht vor den Herausforderungen neuer Technologien(J.B.Mohr)p.247-267.2006年

北川善太郎『Development of Comparative Law in East Asia』M. Reimann & R.Zimmermann (ed.), The Oxford Handbook of Comparative Law (p.237-260) 2006年

北川善太郎『不久未来的法模型－由不久未来而思考现代』（中国政法大）比較法研究（2006年1期）p.130-146（著書17『近未来の法モデル』中国語訳） 2006年

北川善太郎『民法の近未来モデル』神戸法学雑誌 54卷 1号(p161-176) 2003年

北川善太郎『日本民法とドイツ法－比較法の視点から－』民商法雑誌 131-4・5(p5-40) 2003年

Whole Achievement:

This project pays special attention to issues emerged from academic-industrial and academic-academic cooperation and will create a new model of research community as an institution in the Internet. This model has three layersThe first layer is a study on factors

consisting information infrastructure based on Copymart. This is mainly a task for "System Models of Academic Information in Research Institutions" project described in its report. The second layer is on institutions such as intellectual property policies and joint research agreements. The third layer of the project is a research community business system of universities, research institutes and enterprises established on the former two layers. In FY2008 we concentrated on a study of the layer 3. We have integrated research institutions and social systems on the basis of Information Infrastructure System of layer 1 and performed experiments on a newly proposed model of "interactive use," a system in which all the information products are divided into a set of "unit contents" and users search, and obtain a combined set of these unit contents upon demand. The issues in this project vary. We categorize them according to their goals in the following sections.

Experiments completed:

- (1) We accomplished experiments on IIAS Academic Publications collaborating with Information and Publication Committee of IIAS. We have further introduced "IIAS Research Information" and "Copymart Library" provided both on-line and off-line. We will describe details of outcomes on this field at the report of the research project "System Models of Academic Information in Research Institutions."
- (2) We have supported "Computational Material Design (CMD) Copymart," the joint project of Osaka University and IIAS, in its construction of information product distribution system. After our discussion with CMD Copymart project team on a system contract of use and registration on CMD Copymart, license agreements of computational codes, and a privacy policy, CMD Copymart project constructed its own information product distribution system on the web site.
- (3) We have collaborated with other research projects of IIAS for the Copymart agreements in special for particular set of information products. A cooperative project of IIAS and Media Center of Kyoto University concerning transmission of research outcomes of Kyoto University attains IIAS academic information products in the forms of publishing two DVD-movies; a DVD on biological clocks by Institute for Research in Humanities of Kyoto University and a DVD for education on human embryo by Faculty of Medicine of Kyoto University. The Copymart system of information product distribution itself is an outcome of "System Models of Academic Information in Research Institutions" project with the Copymart Institute.

Experiments to be continued in the follow-up research step in FY2009:

- (1) We have studied on Copymart of academic and cultural contents individually and returned the outcomes to our law models. These Copymarts include those dealing with Chemical Substance, Morning Glory (Asagao) cooperating with Kyushu University, Electron Microscope Images, and Designs in Noh Costumes. We will continue our study on this field at the follow-up research stage in 2009.
- (2) We have studied on a possibility of legal education model as a succession of a project "Intellectual Property Law Model for Industry-Academia Cooperation" of IIAS and a project "Legal Learning Model of Copyright Law" of the Copymart Institute. We collaborated with the Copymart Institute on a study of legal information and its Copymart code system.

In the field of law, a few models are discussed and published. Among others, We have explored "Visions of Civil Law in 21st Century" which are legal models in the field of civil law concerning identities of Japanese civil law and Chinese civil law. We held IIAS Forums for three times. The project leader, Zentaro Kitagawa made a presentation at Renmin University of China and his

treatises on property law have been translated into Chinese language. As an application of the research community model, we have proposed "Consumer Law Model. and the project leader has demonstrated it in the Opening Meeting of the the Japan Academy of Consumer Law in 2008.

Finally, it deserves attention that our proposed law model, "IIAS Model for Industrial-Academic Collaboration," which consists of three conventions: an agreement by which a research community comes into existence, intellectual property rules, and a convention on IP records is accepted by other institutes other than IIAS as rules for research committees of Japan Society for the Promotion of Science (JSPS), rules for projects supported by Grants-in-Aid for Scientific Research by Ministry of Education, Culture, Sports, Science and Technology (MEXT) and JSPS, rules for CMD Copymart and so on.

Summing up, as research communities, there are a set of crossdisciplinary or interdisciplinary research groups in IIAS, several collaborative research consortia between IIAS and other research organizations (research committees at JSPS, Kyoto University, Osaka University, etc.), an academic-industry joint venture partnership involved in the online Japanese law system (JALO). Even a technologically simple system may function as such. With some technological refinements, these will become an advanced system of research community.

We will conclude all the issues and outcomes of this project from the viewpoint of "Research Community Model" and publish the final report after our follow-up study in FY2009.

<List of publications in English in relation to this project written by the project leader>

Zentaro Kitagawa, "Research Community as an Institution in the Internet --New Role of Copyright and Contract--" Japanisch-deutsches Symposium Markt und Staat in einer globalisierten Wirtschaft (September 18-20,2008, IIAS) (forthcoming)

Zentaro Kitagawa, "Contracts for Content Distribution - A Japanese Model" in Festschrift fuer Ulrich Eisenhardt zum 70. Geburtstag, 2007, S.263-276.

Zentaro Kitagawa, "Identity of Japanese Civil Law and Civil Law Models for the Near Future" Festschrift fuer Claus-Wilhelm Cnanaris zum 70. Geburtstag, 2007, S.722-734.

Zentaro Kitagawa, 'Academic-Industrial Cooperation and Intellectual Property in Japan' in Asada,Assmann,Kitagawa,Murakami,Nettesheim (hrsg.),Das Recht vor denHerausforderungen neuer Technologien(J.B.Mohr) p.247-267, 2006.

Zentaro Kitagawa, 'Development of Comparative Law in East Asia' in M. Reimann & R.Zimmermann (ed.), The Oxford Handbook of Comparative Law (p.237-260), 2006.

研究成果報告書 : 2010年3月発行予定

担当 : 北川副所長